



こんにちは ひぐち英明

415号 2022年4月24日 連絡先：日本共産党左京地区委員会 Tel 761-6341
左京生活相談所 Tel 781-6622

ホームページ：ひぐち英明 検索

自治体本来の役割を投げ捨てる予算

いのち・暮らしへの支援の拡充こそ必要

2月市会において2022年度予算が可決されました。「行財政改革計画」策定後、初めて

の予算でしたが、あらゆる市民負担増と福祉施策の後退、補助金の削減、職員削減を進める予算となっています。

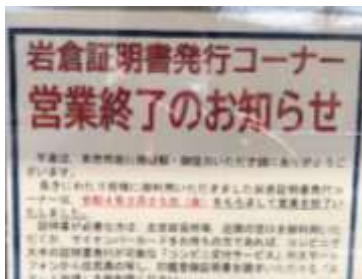
コロナ禍で、いのちと暮らしを支援するという、自治体本来の役割が切実時に求められていく時に、全く逆行する予算であり、許しがたい予算です。



行財政改革計画の撤回を求める取組が繰り返される

「行財政改革」の撤回を求める

岩倉証明書発行コーナー廃止で「営業終了」とは？



地域のみなさんの声を無視して、岩倉証明書発行コーナーが3月に廃止されました。その玄関に「営業終了のお知らせ」との貼り紙。これを見た地域の方が「商売みたくないやな。儲からないからやめました」という発想

「や」と言っていました。まさにその通りです。保健所など身近な役所を、ここぞ増やすべきです。



「財政が破たんする」と市民を脅し負担を押し付け 大型事業の総括も反省もしない市長

とともに、保育や敬老乗車証、コロナ対策などを求める運動が続けられてきています。多くの市民の方と連携し

予算委員会の市長に対する質疑で私は、「財政が破たんする」と、事実とは全く異なる話を振りまいて市民を脅

ロシアはウクライナ侵略やめよ！



↑修学院でアピールデモ



→百万遍でスタンディング

ながら、運動と世論をさらに広げ、改悪の実施を許さない、むしろ、いのちと暮らし、生業

の支援を抜本的に拡充させるために、引き続き力を尽くします。

し、負担増を押し付けすることをやめるよう求めました。一方で、以前より財政が厳しくなっていることも事実です。その大きな要因となったのは、地下鉄東西線建設で大手ゼネコン言われるまま建設費が倍にまで膨れ上がったことや、市税を665億円も注ぎ込んだ市内高速道路のようなムダな大型事業を推進してきたことです。ところが市

長は、これらに対して総括も反省もしていません。また、国による地方交付税の削減方針も「理念は正しい」などと肯定しています。その結果、大企業優遇で大型事業は推進、そのツケはすべて市民に押し付けるといって、国の路線を、市長がそのまま京都で実行してきています。市政と、そのおおもとにある国の政治の転換が切実に求められています。

ひぐち英明 ホッとコム

3月のことです。岡山で暮らす次女(当時高校生)がコロナ陽性となりました。高校の寮とはいえ、民間のアパートを借り上げていただけなので、一人暮らしと変わりありません。

金曜の晩に「発熱したと次女から電話がありました。38.5度。総合病院を受診し、抗原検査で陽性判明。家に帰ったからが大変で、本人は布団に入ったまま、「しんどくて動けない」と電話越しに言っています。岡山県の24時間対応のコールセンターに電話すると、「保健所からの連絡を待ってください」「(月曜が祝日で)連休明けの火曜日の連絡になるかもしれない」と言われて不安が倍増。

翌日の土曜は朝から、再度コールセンターや保健所の留守番電話、市役所の代表電話など、あちこちに電話をかけまくりました。すると、その日の風通しに保健所から第一報の連絡。その後は話がスムーズに進み、夜にはホテル療養に入ることができました。対応していただいたみなさんに感謝するばかりです。

さて、京都市では、保健所が1カ所に減らされた結果、第六波のピーク時には、保健所からの第一報から5日・6日目になるといったケースが続出しました。患者さんやその家族のみなさんに、多大な不安や苦痛を与えてきています。新規感染者は高止まりしていますから、各区役所に保健所を戻すことや医療支援の充実などを、早急に行う必要があります。